

ゲームを家において、出かけよう

2016年08月06日



久々の投稿。

って、メインはやっぱりFacebookなんで、書き始めてこりゃ長え〜という時だけブログって感じですんで、興味のある方はリクエストをどうぞ。

さて、FBでさんざんアゲた栃木県小山での珍道中。仕上げにイクメンパパぶって「次男との小旅行」ふうにポスターにしてみました。リアルな江成は家庭を顧みないダメオヤジ。なので、長男とはこういう思い出が無いですね。。

実際問題、釣り人口が減る一方な現代にあって、こういう働きかけは重要です。とくに身近な淡水の釣りを好むヘラ師には、ヘラというジャンルだけでなく、釣り全体の間口を拡げるのは自分たちなんだ、という自覚が必要だったんじゃないかな、と感じています。

そして、すでにドブプリとハマっている我々ヘラ愛好家にだけメリットがアるってな話じゃなくて、子どもたちに水辺の危険性をおしてまで竿を握らせる社会的なメリットも、キチンと考えておかなばなりません。いまやその役目はバス釣りが担っているんだと思うけれども、より手軽なのはヘラとバスどっち？というね。



ヘラもそれなりに道具は要りますが、ぶっちゃけノベ竿一本で釣りになるワケでしょ。竿掛けなんかイラネ。リールも要らないお手軽さってのは、アピールポイントだと思うんですよ。

ウキだって玉ウキで良いじゃん、最初は。...なんて書くともう、それはヘラ釣りじゃないってアレルギーな人も居るのかもしれませんが、ヘラウキを装着しても浮かべない釣りより遥かにマシだと思いますしねえ。。

そもそも、子どもやビギナー向けに開催するのが、「ヘラ釣り教室」である「必要も無い」んですよ。関西のFB友達である、トーナメンターの石田さんも言っておられましたが、「釣り教室」で良い。タイトルからヘラを外したって、狙うのはヘラってんじゃ難しすぎます。タナ規定の無い釣り場ならまだしもね。

「難しい釣りらしいね？ヘラって。キミ、スゴいなあ！」

という門外漢からの評価に酔い、無自覚にちょっとオナニーな方が多いのかな、と思いますね。あぐらをかくのは、スタイルだけにしておくべきでした。川の小物釣りからの流入で、放っておいてもヘラ人口の補充が出来ていた時代は遠い過去です。新規参入者への敷居を高くしたのは、高価な道具でも難しさでもなく、哲学なき高慢なヘラ師たちです。だいたい、「師」なんて言葉がオカシイ。そんなスタンスだから、人口を「ヘラシ」たんです。自ら。釣り業界全体を引っ張るどころか、足下もおぼつかない現在ですから、自分のことだけ考えてろと言われてしまうかもですが、そういう志が必要だったんだと思いますね。

そもそも「フナ釣り」には、マブナを駆逐してヘラに置き換えた歴史があるワケです。[ナリーズ](#)と共に僕のライフワークとなった[フナビー](#)で、「ヘラ」でなく「フナ」に拘った理由はソコ。ヘラビーではなくフナビーなんですね。上っ面を見て誤解されがちなんですが、ナリーズもフナビーも[チャレンジ](#)も、全て同じ方向を向いている三本の矢です。この説明はちょっと文章だと面倒なので、興味ある方は一緒に遊びましょう。朝までお話いたします。

今回のフナビー動画では、サオー本のメリットで、ザリガニにまで話を広げてみました。かなり強引なオチですけどねwww

やがて竿掛けを使ったヘラスタイルに憧れ、釣り台を購入しても五目釣り、大人になってヘラ一本。そんな道筋が理想でしょうか。

ポスターの主役もマブですよ。小マブ。

今回の旅行でガイドを引き受けてくれた小山口コの國安君が、僕のFB投稿にコメントしていたけれど、チャレンジの練習にはマジでなと思いますね。持って行っちゃウアタリだろうが何だろうが、毎投サカナがついて上がってくるという経験は、手返しのスピードアップに役立つんです。僕は小学生か中学生の頃にすでに、コイっ子と小ブナで300匹釣った記憶があります。成人してゴールデンクラブで揉まれる前に、すでに身につけていた手返しです。いくら手返しが早くてもヘラは簡単に食ってくれないため、ヘラで300に到達するのは時間がかかりましたが。

クチボソ、マブ、ヘラ（一枚のみ）、コイ科の魚を全部カウントして30匹。二時間の次男の釣果です。スレもカウントしていますが、新記録というか大記録。鼻の穴ふくらませていました。この先も釣りを続けるかどうかは謎ですが、少なくとも栈橋上にジャミを放り投げるアングラーにはならないことでしょう。

（オマケ）

次男と同じ歳の昨日今日、僕はヒロシマに居ました。次男は小山、少年時代のオヤジはヒロシマ。目的は違って、いずれも旅行であり、不思議な気分です。ベルリンの壁が崩れ、ソ連崩壊とともに冷戦が終わって平和な時代が訪れたのかと思いきや、世界はますます混沌としています。人間の欲と業は、時代が変わっても無くなることはありません。不確かな世界の中で生き抜く知恵、他者との関係性構築は、ゲームのモニターからは学べません。SNSが全てウソとは思いませんが、生身の人間と全く同じというのもムリがあるでしょう。

自我には他者の存在が不可欠です。他人という存在があってはじめて、その比較から自分を切り取ることが可能になります。とはいえ自分のために四六時中つきあってくれるパートナーは、そうそう見つけれませんし、失礼。そんなとき、魚と対峙することで自己と向き合う。せっかく二人っきりの旅行なんで、そんな話もしたかったんですが...チビにはまだ早いと諦めましたw

